

イペットS®(タヒボ含有食品)を 用いた犬2例の治療経験

○山我義則¹⁾、片野修一²⁾、宮 賢次郎²⁾、大川 博³⁾

¹⁾エルム動物クリニック(新潟県)、²⁾カタノ動物病院(新潟県)、

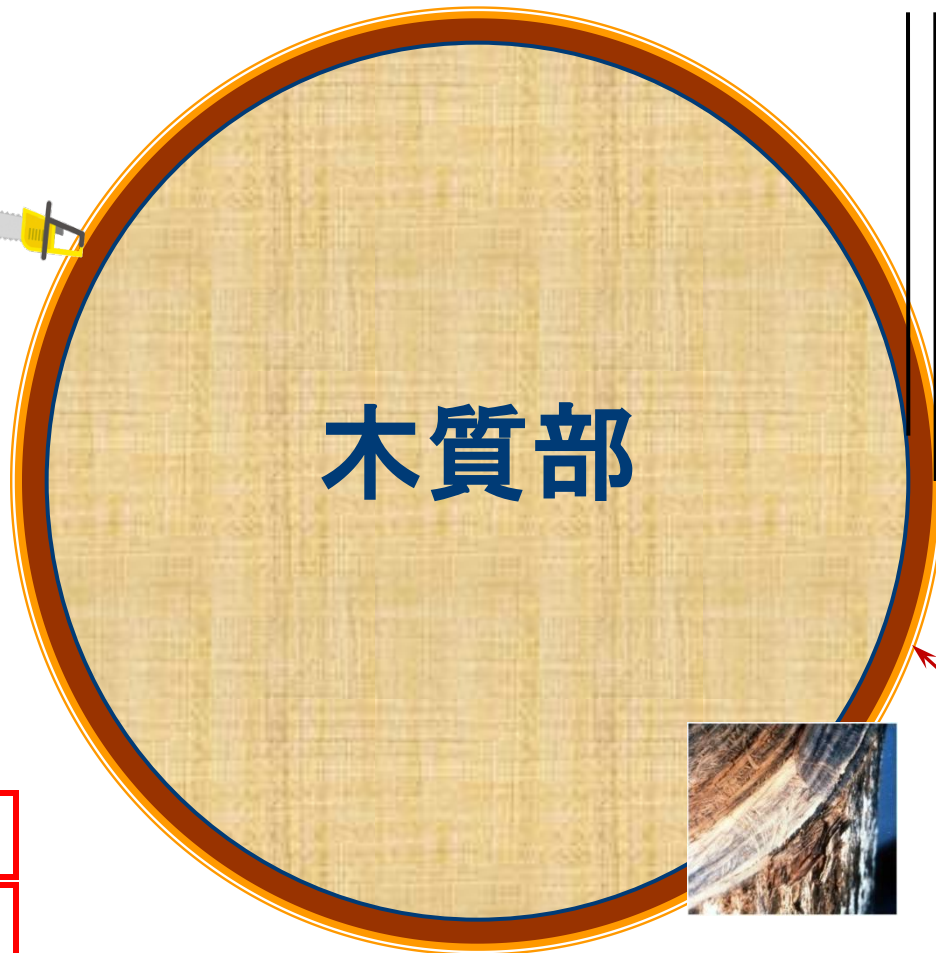
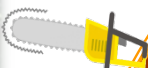
³⁾スケアクロウ(株)



アマゾン川 (Rio Amazonas)

タヒボ(TAHEEBO):

学名: *Tabebuia avellanedae*



わずか7mm の
内部樹皮



外皮

樹齡30年以上

幹の直径
1.5 m 以上



TAHEEBO JAPAN CO.,LTD.

●タヒボ (Tabebuia avellanedae) の抗がん作用

選択毒性

正常細胞にはほとんど影響を与えずがん細胞だけを標的にする。

転移・浸潤抑制

アポトーシス誘導

血管新生阻害



～5 kg	1錠
5～10 kg	2錠
10～20 kg	4錠
20～30 kg	6錠
30kg～	8錠

藤田道郎ら, CAP, 2010 より

「イペットS®」
(タヒボ原末:
150mg/錠含有, 直径=5mm)

症例1の概要:①



症例:犬、ヨークシャー・テリア、去勢雄、
15歳、体重:4.4kg。

主訴:発咳と軟～下痢便。

血液生化学:ALT=**158** IU/L、ALP=**1,168** IU/L、
GGT=**28** IU/L

X線検査:気管狭窄、肝腫大

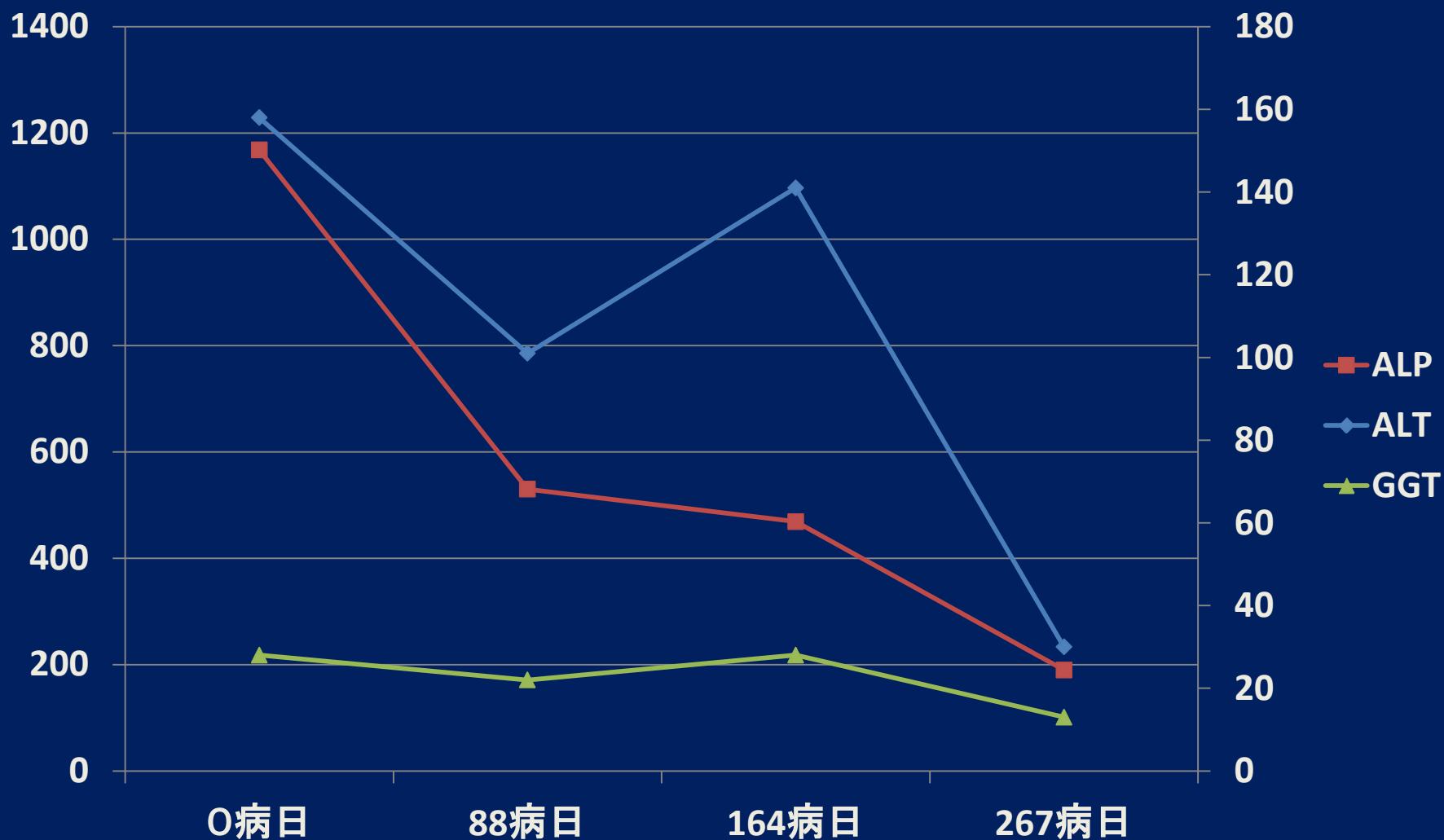


症例1の超音波画像：初診時①

仮診断：肝・胆道系腫瘍？

治療：利胆剤とイペットS[®] 2錠^{*)}/日

^{*)}：給与量は 平田章二、ISIM 国際統合医学会誌、2010 を参考



血液生化学検査値の推移: 症例1

88病日



164病日



267病日

症例1の超音波画像の推移②

その後の経過: 症例1

1. 267病日より、イペットS[®] は1錠/日に減量:
検査所見改善と再発予防のため。
 2. 慢性腎臓病(360病日～)の内科療法と
イペットS[®] の併用(1錠/日～隔日給与)。
 3. 初診より、2年半経過後の現在も QOL は良好。
-

症例2の概要:①

(初診時)



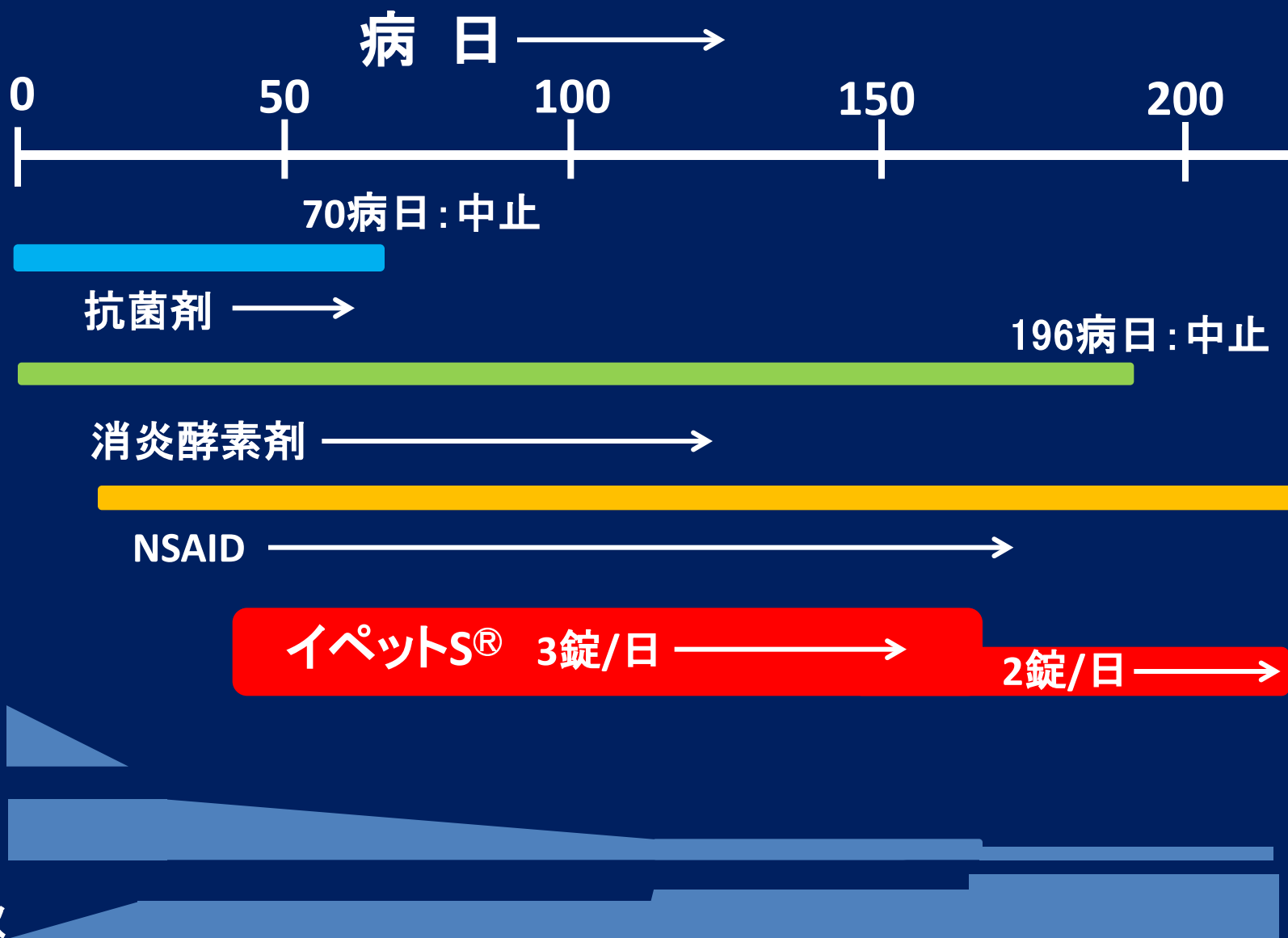
症例: 犬、M・ダックス、雌、7歳、5.4kg。

身体検査: 全身性発熱(体温=40.4℃)、

乳腺部位の腫大(直径15mm～)と熱感。

血液・血液生化学検査: WBCの軽度増多(18,900/ $\mu\ell$)
以外特になし。

仮診断: 炎症を伴う乳腺腫瘍？。



臨床経過①: 症例2



376病日：最大径=3.5cm



705病日：～1.7cm



772病日：～1.5cm

乳腺腫瘍の変化：症例2

症例2の概要：②

(391病日)

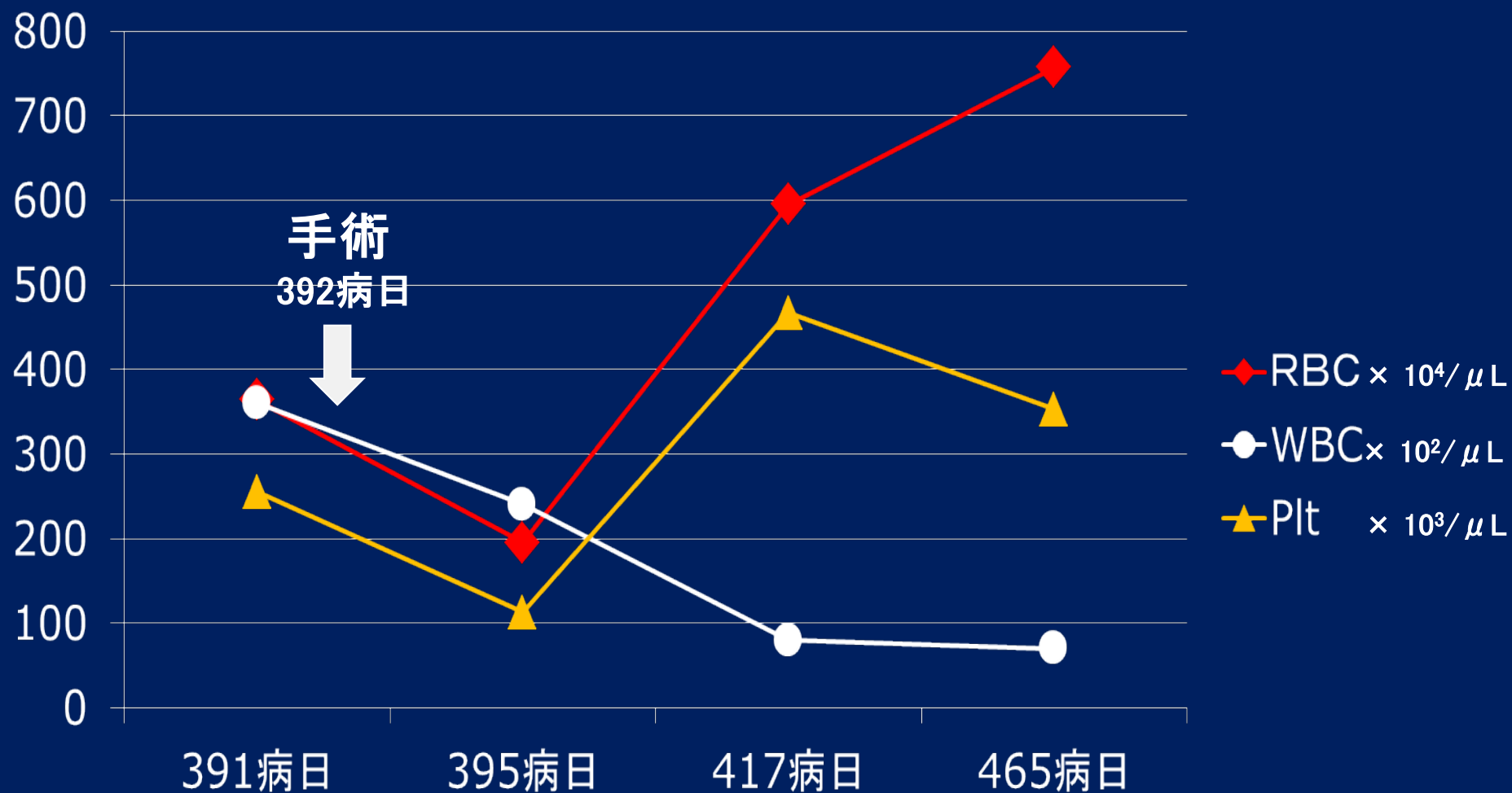
主 訴：元気・食欲低下、多飲、腹囲膨満、悪露。

血液・血液生化学検査所見：()は395病日の所見：

WBC=35,800 / $\mu\ell$, RBC=364 (195) $\times 10^4$ / $\mu\ell$, PCV=27(13)%,
TP=9.0 g/d ℓ , A/G比=0.38, ALT=26 IU/L,
ALP=411 /L, GGT=12 /L, BUN=138.5mg/d ℓ ,
Cre=1.6 mg/d ℓ , IP=10.3 mg/d ℓ

画像検査所見：子宮蓄膿症を示唆する所見。

仮診断：子宮蓄膿症と貧血。



術後の血球数の推移: 症例2

その後の経過: 症例2

1. 炎症を伴う乳腺腫瘍
 2. 乳腺腫瘍の退縮
 3. 子宮蓄膿症発症時の重度の貧血
 4. 初診より、2年経過後の現在もQOLは良好
-

タヒボの効能

抗ガン・抗腫瘍作用

抗炎症作用

赤血球産生促進作用

代謝機能改善作用

抗ストレス作用

免疫賦活・改善作用

鎮痛作用

抗酸化作用

利尿作用

ホルモン分泌改善作用

松田秀秋、神からの恵みの木 タヒボ、2009 より

獣医学文献

1. 藤田道郎、大内詠子、長谷川大輔、谷口明子、大川 博、本間千尋、畠中平八(2012): 今後の獣医療における免疫治療のあり方 第1部: がん犬に対する「イペットs®」(タヒボ含有)の効果 第14回日本臨床獣医学フォーラム年次大会2012 Proceeding 14-1, 378-379
 2. 中川耕介、藤田道郎、弥吉直子、谷口明子、長谷川大輔、織間博光、大川 博、畠中平八(2011): 獣医臨床における「イペットs」の効果 第7回日本獣医内科学アカデミー学術大会抄録 169
 3. 藤田道郎、中川耕介、弥吉直子、長谷川大輔、谷口明子、大川 博、本間千尋、畠中平八(2011): がん犬およびがん猫に対する「イペットs」(タヒボ原末含有)による抗腫瘍効果 CAP、26(10)(No268)、92-95
 4. 藤田道郎、島倉秀勝、弥吉直子、谷口明子、長谷川大輔、織間博光、大川 博、永井朝子(2010): 獣医臨床における「イペットs」(タヒボ原末含有)の効果 CAP、25(3)(No249)、96-99
 5. 藤田道郎、高石裕未、弥吉直子、谷口明子、長谷川大輔、織間博光、大川 博、安達実、畠中平八(2008): イペットs®(タヒボ原末含有)のがん犬への臨床応用について 第29回動物臨床医学会年次大会抄録、16-20
 6. 津曲茂久、桑原正人、大川 博、安達 実、畠中平八(2007): イペット(タヒボNFD®含有)の動物疾患への効用試験 小動物臨床、26、375-380
-